

道 徳

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年
番号	名称	略称			
2	東京書籍	東 書◆	道徳 701・801・901	A B 640	令和2年
17	教育出版	教 出◆	道徳 702・802・902	B 5 622	
38	光村図書	光 村◆	道徳 703・803・903	B 5 607	
116	日本文教出版	日 文◆	道徳 704・705・804 805・904・905	B 5 720	
224	学研教育みらい	学 研◆	道徳 706・806・906	A 4 582	
232	廣済堂あかつき	廣あかつき◆	道徳 707・708・807 808・907・908	A B 678	
233	日本教科書	日 科◆	道徳 709・809・909	B 5 582	

※「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示しています。

校 種		聴覚障害特別支援学校	肢体不自由・病弱特別支援学校
観点	生徒の実態	・両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上で、補聴器等の使用によっても通常の話し声を解することが不可能又は著しく困難な程度である。	・肢体不自由の状態が、補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度である。 ・慢性の疾患等の状態が、継続して医療又は生活規制を必要とする程度である。
	1 障害のある生徒が興味・関心をもって取り組むことができる教材等について	①身近な題材について、体験を通して考えるなど、学習活動が工夫できるもの。 ②聴覚障害の理解に関わる記述があるもの。	①学校生活などでイメージしやすい身近な教材を取り上げているもの。 ②肢体不自由や病弱の理解に関わる記述があるもの。
	2 障害への配慮を要する内容等について	①言葉や音を聞き取る活動が含まれ、学習活動に困難が想定されるもの。 ②インタビュー等、会話が主体となる活動があり、学習の際に特別な支援が必要であるもの。 ③方言や特徴的な言い回し等を多用し、読解の際に説明が必要であるもの。	①視機能の障害や上肢の操作性等から学習活動に困難が想定されるもの。 ②病気の治療などによる運動制限から、経験しにくい体験的活動を扱った教材が取り上げられているもの。 ③各学年の生徒数が少ないため、集団活動が含まれるなど取扱いが困難と思われる内容が取り上げられているもの。
構成上の工夫	その他 障害の状態に応じた事項	①聴覚の障害を補えるように、写真、図絵等の視覚的に説明しているもの。	①学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されていたり、各単元等のまとまりが記されていたりするもの。 ②外出等の社会的経験の不足を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明されているもの。

中学部 道徳(聴覚障害特別支援学校)

	発行者	東書	教出	光村
内容	「主として自分自身に関すること」を扱っている主な教材数	21	21	23
	「主として人との関わりに関すること」を扱っている主な教材数	22	20	20
	「主として集団や社会との関わりに関すること」を扱っている主な教材数	43	43	35
	「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を扱っている主な教材数	25	21	21
	情報モラルや現代的な課題を扱っている主な教材数	19	15	40
	人物の生き方や考え方等から学ぶ主な教材に取り上げられている人物の数	35	43	43
内容	1 聴覚障害のある生徒が興味・関心をもって取り組むことができる教材等について ①身近な題材について、体験を通して考えるなど、学習活動が工夫できるもの。 ②聴覚障害の理解に関わる記述があるもの。	33箇所 ①1年「席替え」では、席替えを通して公正、公平について考える題材を取り上げている。(P104) ②3年「たとえぼくに明日はなくとも」では、聴覚障害のある陶芸家との交流を描いた場面がある。(P187)	19箇所 ①2年「本当の友達って」では、タブレット端末等を介した友達関係について考える題材を取り上げている。(P132) ②2年「飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ」では、主人公の母親が闘病の過程で聴覚を失ったとの記述がある。(P119)	33箇所 ①3年「家族って？家庭って？」では、家庭の役割について考える題材を取り上げている。(P108) ②2年「異なり記念日」では、聴覚障害者とその家族に関する題材を取り上げている。(P50)
	2 聴覚障害への配慮を要する内容等について ①言葉や音を聞き取る活動が含まれ、学習活動に困難が想定されるもの。 ②インタビュー等、会話が主体となる活動があり、学習の際に特別な支援が必要であるもの。 ③方言や特徴的な言い回し等を多用し、読解の際に説明が必要であるもの。	32箇所 ①3年「缶コーヒー」では、イヤホンで音楽を聴いている場面があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P96) ②1年「朝市の『おはようございます』」では、地域の人と挨拶を交わす場面があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P11) ③2年「宝塚方面行きー西宮北口駅」では、方言が多用されているため、説明が必要である。(P76)	33箇所 ①3年「旅立ちの日に」では、後輩に向けて合唱をする場面があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P154) ②1年「幸せな仕事って」では、職業に関することを聞き取る活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P130) ③3年「卒業文集の最後の二行」では、方言が用いられているため、説明が必要である。(P35)	14箇所 ①2年「カラカラカラ」では、電車の中で空き缶が転がる場面があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P15) ②1年「紙芝居」では、地域の子供たちに紙芝居を読み聞かせる場面があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P82) ③1年「なおしもん」では、方言が用いられているため、説明が必要である。(P98)
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	10.5ポイント	10.5ポイント	10ポイント
	1ページの基本的な文字数	46文字×22行	43文字×19行	41文字×20行
	欄外の文字の大きさ	7.5ポイント	7ポイント	7ポイント
	ふりがな 未習得及び難読漢字 障害の状態に応じた事項、その他 ①聴覚の障害を補えるように、写真、図絵等の視覚的に説明しているもの。	未習得及び難読漢字 ①1年「火の鳥」では、本文に関連する写真を見開き2ページで示している。(P134-135)	未習得及び難読漢字 ①3年「歩きスマホをどうするか」では、主題を考えるための材料として、ポスターやグラフィック等を示している。(P22-23)	未習得及び難読漢字 ①3年「アイツとオレ」では、主題を考えるための材料として、登場人物の心情や状況を漫画形式で示している。(P167-171)
参考	国旗・国歌の扱い	あり	あり	あり
	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり
	性差と家族についての扱い	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり

中学部 道徳(聴覚障害特別支援学校)

	発行者	日文	学研	廣あかつき
内容	「主として自分自身に関すること」を扱っている主な教材数	18	24	24
	「主として人との関わりに関すること」を扱っている主な教材数	20	22	21
	「主として集団や社会との関わりに関すること」を扱っている主な教材数	46	37	36
	「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を扱っている主な教材数	21	22	24
	情報モラルや現代的な課題を扱っている主な教材数	25	21	14
	人物の生き方や考え方等から学ぶ主な教材に取り上げられている人物の数	36	52	41
内容	1 聴覚障害のある生徒が興味・関心をもって取り組むことができる教材等について ①身近な題材について、体験を通して考えるなど、学習活動が工夫できるもの。 ②聴覚障害の理解に関わる記述があるもの。	25箇所 ①1年「毎日を安全に過ごすために」では、地域の安全や防犯について考える題材を取り上げている。(P70) ②3年「自分・相手・周りの人」では、聴覚障害があることを表す「耳マーク」を紹介している。(P121)	22箇所 ①1年「うわさで決めるの？」では、SNSを介した友達関係について考える題材を取り上げている。(P24) ②2年「誰もがスポーツを楽しめる社会に」では、聴覚障害者のサッカーであるデフサッカーを取り上げている。(P60-61)	14箇所 ①3年「アイツの進路選択」では、進路選択をめぐる友情について考える題材を取り上げている。(P72) ②2年「燃え盛る炎」では、聴覚障害のある陶芸家との交流を描いた場面がある。(P38)
	2 聴覚障害への配慮を要する内容等について ①言葉や音を聞き取る活動が含まれ、学習活動に困難が想定されるもの。 ②インタビュー等、会話が主体となる活動があり、学習の際に特別な支援が必要であるもの。 ③方言や特徴的な言い回し等を多用し、読解の際に説明が必要であるもの。	26箇所 ①1年「むかで競争」では、かけ声を合わせて競技を行う場面があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P86) ②2年「直撃 仕事インタビュー」では、様々な職業の方へインタビューをする活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P20-21) ③2年「避難所にて」では、方言が用いられているため、説明が必要である。(P154)	14箇所 ①3年「写真を見て考えよう」では、バス乗車中の携帯電話の利用について考える活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P125) ②1年「挨拶しますか、しませんか」では、様々な場面での挨拶に関する記述があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P20) ③3年「私たちの夏」では、方言が多用されているため、説明が必要である。(P50)	26箇所 ①1年「あなたの『生きようとする力』」では、赤ちゃんの産声に関する記述があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P15) ②1年「半分おとな、半分こども」では、地域の人との挨拶に関する記述があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P29) ③3年「山寺のびわの実」では、方言が多用されているため、説明が必要である。(P14)
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	10.5ポイント	10.5ポイント	1年 12ポイント 3年 10.5ポイント
	1ページの基本的な文字数	44文字×21行	48文字×24行	1年 38文字×21行 3年 43文字×24行
	欄外の文字の大きさ	7ポイント	7.5ポイント	8ポイント
	ふりがな 障害の状態に応じた事項、その他 ①聴覚の障害を補えるように、写真、図絵等の視覚的に説明しているもの。	未習得及び難読漢字 ①1年「怒りの感情と上手につき合おう」では、主題を考える材料として、怒りのレベルや感情の静め方をイラストで示している。(P42-43)	未習得及び難読漢字 ①2年「ごみ収集場所をどこに」では、本文にある話し合いの内容を吹き出しやイラストで示している。(P23)	未習得及び難読漢字 ①1年「ガジュマルの木」では、本文に関連する写真を1ページ全体で示している。(P166)
参考	国旗・国歌の扱い	あり	あり	あり
	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり
	性差と家族についての扱い	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり

中学部 道徳(聴覚障害特別支援学校)

発行者		日科
内容	「主として自分自身に関すること」を扱っている主な教材数	20
	「主として人との関わりに関すること」を扱っている主な教材数	23
	「主として集団や社会との関わりに関すること」を扱っている主な教材数	47
	「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を扱っている主な教材数	21
	情報モラルや現代的な課題を扱っている主な教材数	11
	人物の生き方や考え方等から学ぶ主な教材に取り上げられている人物の数	43
内容	1 聴覚障害のある生徒が興味・関心をもって取り組むことができる教材等について ①身近な題材について、体験を通して考えるなど、学習活動が工夫できるもの。 ②聴覚障害の理解に関わる記述があるもの。	21箇所 ①3年「礼儀はなぜ必要なのか」では、身近な場面における礼儀正しい振る舞いについて考える題材を取り上げている。(P56) ②1年「二枚のチケット」では、視覚障害と聴覚障害のある人が登場する場面がある。(P40)
	2 聴覚障害への配慮を要する内容等について ①言葉や音を聞き取る活動が含まれ、学習活動に困難が想定されるもの。 ②インタビュー等、会話が主体となる活動があり、学習の際に特別な支援が必要であるもの。 ③方言や特徴的な言い回し等を多用し、読解の際に説明が必要であるもの。	25箇所 ①2年「だから歌い続ける」では、合唱コンクールに関する内容があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P64) ②3年「ぼくの留学体験記」では、外国人と会話をする場面があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P138) ③2年「受け継がれた夜」では、狂言の特徴的な言い回しがあるため、説明が必要である。(P135)
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	10.5ポイント
	1ページの基本的な文字数	45文字×21行
	欄外の文字の大きさ	8ポイント
	ふりがな 未習得及び難読漢字 障害の状態に応じた事項、その他 ①聴覚の障害を補えるように、写真、図絵等の視覚的に説明しているもの。	①1年「二つの足跡」では、主題を考える材料として、恐竜の足跡をイラストで示している。(P70-71)
参考	国旗・国歌の扱い	あり
	防災や自然災害の扱い	あり
	性差と家族についての扱い	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり

中学部 道徳(肢体不自由・病弱特別支援学校)

	発行者	東書	教出	光村
内容	「主として自分自身に関すること」を扱っている主な教材数	21	21	23
	「主として人との関わりに関すること」を扱っている主な教材数	22	20	20
	「主として集団や社会との関わりに関すること」を扱っている主な教材数	43	43	35
	「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を扱っている主な教材数	25	21	21
	情報モラルや現代的な課題を扱っている主な教材数	19	15	40
	人物の生き方や考え方等から学ぶ主な教材に取り上げられている人物の数	35	43	43
	1 肢体不自由・病弱のある生徒が興味・関心をもって取り組むことができる教材等について ①学校生活などでイメージしやすい身近な教材を取り上げているもの。 ②肢体不自由や病弱の理解に関わる記述があるもの。	34箇所 ①2年「あいさつ」では、身近な挨拶や礼儀について取り上げている。(P10) ②3年「たとえぼくに明日はなくとも」では、進行性筋萎縮症の少年を題材として取り上げている。(P184)	33箇所 ①3年「フットライト」では、学校生活に身近な文化祭のことを取り上げている。(P70) ②1年「夢への挑戦『パラカヌー』」では、体幹機能障害のパラアスリートを題材として取り上げている。(P176)	44箇所 ①2年「夢中になるのは悪いこと？」では、望ましい生活習慣について考える題材を取り上げている。(P58) ②1年「三百六十五×十四回分の『ありがとう』」では、単心室症を患っていた少女を題材として取り上げている。(P13)
2 肢体不自由・病弱への配慮を要する内容等について ①視機能の障害や上肢の操作性等から学習活動に困難が想定されるもの。 ②病気の治療などによる運動制限から、経験しにくい体験的活動を扱った教材が取り上げられているもの。 ③各学年の生徒数が少ないため、集団活動が含まれるなど取扱いが困難と思われる内容が取り上げられているもの。	69箇所 ①全学年の巻末に「心情円」を作成する活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(巻末) ②2年「遠足で学んだこと」では、遠足で行った山登りを取り上げており、取り扱う際に配慮が必要である。(P18) ③1年「その人が本当に望んでいること」では、役割演技やグループで話し合う活動がある。(P86)	50箇所 ①2年「ハッチを開けて、知らない世界へ」では、本文が写真の上に記載されているため、取り扱う際に配慮が必要である。(P156) ②3年「僕は友達を裏切ったのか？」では、野球について取り上げており、取り扱う際に配慮が必要である。(P14) ③2年「まるごと好きです」では、グループで話し合う学習活動がある。(P13)	47箇所 ①3年「落葉」では、本文と資料写真が別ページにあり、取り扱う際に配慮が必要である。(P131-132) ②2年「秀さんの心」では、職業体験を取り上げており、取り扱う際に配慮が必要である。(P65) ③1年「みんなで成功させよう」では、集団での活動を充実させるために大切なことを考える題材を取り上げている。(P50)	
本文の文字の大きさ	10.5ポイント	10.5ポイント	10ポイント	
1ページの基本的な文字数	46文字×22行	43文字×19行	41文字×20行	
欄外の文字の大きさ	7.5ポイント	7ポイント	7ポイント	
構成上の工夫 ふりがな 障害の状態に応じた事項、その他 ①学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されていたり、各単元等のまとまりが記されていたりするもの。 ②外出等の社会的経験の不足を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明されているもの。	未習得及び難読漢字 ①全ての単元の最後に「考えよう」「自分を見つめよう」として、学習のポイントを枠囲みで示している。(1年P19など) ②3年「無実の罪」では、登場人物の表情や心情を漫画形式で示している。(P20-23)	未習得及び難読漢字 ①全ての単元の最初に考えるポイントを枠囲みで示している。(1年P8など) ②3年「昇き縄」では、博多山笠の様子をページ全体にイラストで示している。(P51)	未習得及び難読漢字 ①全ての単元の最後に学習のポイントとともに、「見方を変えて」「つなげよう」として、考えを深める問いを示している。(3年P18など) ②1年「ユニバーサルデザイン」では、ユニバーサルデザインの7原則をイラストで示している。(P40-41)	
参考	国旗・国歌の扱い	あり	あり	あり
	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり
	性差と家族についての扱い	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり

中学部 道徳(肢体不自由・病弱特別支援学校)

	発行者	日文	学研	廣あかつき
内容	「主として自分自身に関すること」を扱っている主な教材数	18	24	24
	「主として人との関わりに関すること」を扱っている主な教材数	20	22	21
	「主として集団や社会との関わりに関すること」を扱っている主な教材数	46	37	36
	「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を扱っている主な教材数	21	22	24
	情報モラルや現代的な課題を扱っている主な教材数	25	21	14
	人物の生き方や考え方等から学ぶ主な教材に取り上げられている人物の数	36	52	41
	1 肢体不自由・病弱のある生徒が興味・関心をもって取り組むことができる教材等について ①学校生活などでイメージしやすい身近な教材を取り上げているもの。 ②肢体不自由や病弱の理解に関わる記述があるもの。	38箇所 ①1年「私らしさって？」では、友達とのやりとりを通して、自分らしさについて考える題材を取り上げている。(P82) ②2年「命を見つめて」では、大腿骨骨肉腫の少女を題材として取り上げている。(P160)	24箇所 ①1年「挨拶しますか、しませんか」では、挨拶の意義について考える題材を取り上げている。(P20) ②3年『血の通った義足』を作りたいたいでは、義手や義足などを作る義肢装具士を題材として取り上げている。(P170)	26箇所 ①1年「ヨシト」では、友達との関係について考える題材を取り上げている。(P36) ②2年「迷惑とは何ぞ」では、車いすの青年たちを描いた映画に関する記述がある。(P128)
2 肢体不自由・病弱への配慮を要する内容等について ①視機能の障害や上肢の操作性等から学習活動に困難が想定されるもの。 ②病気の治療などによる運動制限から、経験しにくい体験的活動を扱った教材が取り上げられているもの。 ③各学年の生徒数が少ないため、集団活動が含まれるなど取扱いが困難と思われる内容が取り上げられているもの。	37箇所 ①2年「包む」では、風呂敷で包む活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P184) ②2年「ハイタッチがくれたもの」では、バレーボールの試合の場面があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P70) ③3年「昔と今を結ぶ糸」では、修学旅行の班別行動についてグループで話し合う活動がある。(P22)	67箇所 ①3年「夢の地図を書いてみよう」では、小さな枠内に記入する活動があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P169) ②1年「自然の懐に抱かれて」では、遠足で行った登山の場面を取り上げており、取り扱う際に配慮が必要である。(P121) ③3年「笛」の「深めよう」のコーナーでは、役割演技やグループで話し合う活動がある。(P61)	28箇所 ①1年「ネット将棋」では、将棋を指す場面があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P111) ②3年「母と子のロードレース」では、自転車競技を取り上げており、取り扱う際に配慮が必要である。(P82) ③1年「銀色のシャープペンシル」では、合唱コンクールの練習の様子についての記述がある。(P124)	
本文の文字の大きさ	10.5ポイント	10.5ポイント	1年 12ポイント 3年 11ポイント	
1ページの基本的な文字数	44文字×21行	48文字×24行	1年 38文字×21行 3年 43文字×24行	
欄外の文字の大きさ	7ポイント	7.5ポイント	8ポイント	
構成上の工夫	ふりがな 障害の状態に応じた事項、その他 ①学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されていたり、各単元等のまとまりが記されていたりするもの。 ②外出等の社会的経験の不足を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明されているもの。	未習得及び難読漢字 ①3年「私たちは、なぜ人を攻撃するの？」では、学習のまとめを色付きの文字や枠囲みで示している。(P34) ②1年「オーロラ」では、オーロラの写真を見開き2ページで示している。(P162-163)	未習得及び難読漢字 ①1年「トキのいる里をもう一度」では、主題を考えるためのポイントを、欄外に枠囲みで示している。(P82) ②2年「厳かなるもの」では、火山や鳴門の渦潮など、日本各地の自然を写真で示している。(P142-143)	未習得及び難読漢字 ①全ての単元の最後に「考える・話し合う」として、学習のポイントを枠囲みで示している。(2年P9など) ②1年「島耕作 ある朝の出来事」では、朝の通勤ラッシュの様子を原作漫画を引用して示している。(P62-63)
	参考	国旗・国歌の扱い	あり	あり
	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり
	性差と家族についての扱い	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり

中学部 道徳(肢体不自由・病弱特別支援学校)

発行者		日科
内容	「主として自分自身に関すること」を扱っている主な教材数	20
	「主として人との関わりに関すること」を扱っている主な教材数	23
	「主として集団や社会との関わりに関すること」を扱っている主な教材数	47
	「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を扱っている主な教材数	21
	情報モラルや現代的な課題を扱っている主な教材数	11
	人物の生き方や考え方等から学ぶ主な教材に取り上げられている人物の数	43
	1 肢体不自由・病弱のある生徒が興味・関心をもって取り組むことができる教材等について ①学校生活などでイメージしやすい身近な教材を取り上げているもの。 ②肢体不自由や病弱の理解に関わる記述があるもの。	38箇所 ①1年「雄司の自慢」では、学校給食を題材として取り上げている。(P144) ②2年「二人の剣士」では、上肢に障害のある生徒を題材として取り上げている。(P184)
2 肢体不自由・病弱への配慮を要する内容等について ①視機能の障害や上肢の操作性等から学習活動に困難が想定されるもの。 ②病気の治療などによる運動制限から、経験しにくい体験的活動を扱った教材が取り上げられているもの。 ③各学年の生徒数が少ないため、集団活動が含まれるなど取扱いが困難と思われる内容が取り上げられているもの。	40箇所 ①1年「ペーパーバード」では、教材が単一色で描かれているため、取り扱う際に配慮が必要である。(P130-131) ②1年「いつもいっしょに」では、バレーボール部の活動場面があり、取り扱う際に配慮が必要である。(P48) ③3年「ニュースで討論『支え合いは当たり前』」では、グループで討論する活動がある。(P90-91)	
本文の文字の大きさ	10.5ポイント	
1ページの基本的な文字数	45文字×21行	
欄外の文字の大きさ	8ポイント	
構成上の工夫 ふりがな 障害の状態に応じた事項、その他 ①学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されていたり、各単元等のまとまりが記されていたりするもの。 ②外出等の社会的経験の不足を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明されているもの。	未習得及び難読漢字 ①全ての単元の最後に、「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」として、学習のポイントを枠囲みで示している。(2年P28など) ②3年「プラットフォームのできごと」では、駅のホームで発生した事故の救出の様子をページ全体に写真で示している。(P97)	
参考	国旗・国歌の扱い	あり
	防災や自然災害の扱い	あり
	性差と家族についての扱い	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり